

実施報告書

HT26164

【プログラム名】スマートフォンで俳句・連句のイラストとアニメーションを表現しよう！！



開催日：平成26年12月24日(水)

実施機関：金沢学院大学
(実施場所) (2号館232パソコン室)

実施代表者：高田 伸彦
(所属・職名) (美術文化学部・教授)

受講生：高校生21名

関連 URL：

【実施内容】

<本プログラムの留意点と工夫点>

本プログラムは、毎年、我々の研究内容を踏まえて実施している。プログラムの内容は、前年度の反省点を踏まえ、より充実した内容とした。今回は、スマートフォン上での表現を主眼として、文学(俳句・連句)をベースにどのようにイラストやアニメーションを制作するかに焦点を絞って行った。いかに分かりやすく、且つ、興味の持てる内容とするか、今回は下記の事柄に留意、工夫して実施した。

- ・俳句・連句の講義はできる限りPPTで要点を分かりやすく説明した。
- ・俳句や連句を理解し易くするために、今回は、「三日月を並んで仰ぐ和毛三つ」という句を採用し、身近な題材で講義し、スマートフォンで見た場合、小さい画面でも映えるような句を選定した。
- ・今年度も、Mac OS上でのPhotoshopとFlashを使用したが、最新のFlashを利用して新しい機能を活用し、受講生により快適な環境を提供した。
- ・制作ツールとしてのPhotoshopやFlashは、初めて使用する受講生もかなりいたため、分かりやすく指導するとともに個人的なサポートを本学学生スタッフが実施協力者として担当した。特に、Flashはほとんどの受講生が初めてだったため、スタッフを多く配置し、付いて行けない受講生が出ないように配慮した。
- ・静止画を描くのが午前中の課題であったが、今回も時間までに終了しない受講生がいたので、休み時間を多く取って対応した。

<当日のスケジュール>

- 09:00-09:30 金沢駅からバスで学校まで送迎
- 09:30-09:40 受付の開始・教室への移動
- 09:40-09:50 開講式(あいさつ、オリエンテーション)
- 09:50-10:10 科研費の説明
- 10:10-10:40 俳句と連句に関する講義
- 10:40-10:50 休憩
- 10:50-11:10 研究の紹介と成果に関して
- 11:10-12:00 Photoshop による俳句と連句の演習
- 12:00-13:00 軽食(弁当+茶菓等の配布)
- 13:00-14:00 Flash による俳句と連句の演習
- 14:00-14:10 休憩
- 14:10-14:50 アニメーション鑑賞・発表等
- 14:50-15:20 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)
- 15:20 終了・解散 バスで金沢駅まで送迎

<実施の様子>

上記に記載したプログラムに沿って実施し、以下のとおりの様子であった。最初に開講式(挨拶とオリエンテーション)を簡単に済ませ、科研費の重要性等を中心に説明した。その際、配付したパンフレットとインターネット上のホームページを利用して説明した(Photo1)。受講生のほとんどが初めて科研費に関する話を聞いたようであった(担当 高田)。

その後、30分程度、柳澤教授が俳句と連句に関する講義を実施した(Photo2)。特に、文学的な面白さを伝えるように心がけ、「三日月を並んで仰ぐ和毛三つ」の句を中心にイラストを交えてビジュアル的な講義を行った。

10分程度休憩の後、スマートフォンを中心としたビジュアル的なアニメーション等現在の我々の研究の成果について紹介を行った。その際、現在までに発表した論文のサマリと実際に制作した静止画やアニメーションを見せながら解説した。今回は特に、スマートフォンを対象にしていたのでその画面での表示方法の説明、また、発展課題として3Dアニメーションの抽象画も含め提示した。

次に、吉田講師によるPhotoshopでの俳句と連句の演習において、3匹の猫を題材としてイラストを制作した(Photo3)。今回参加した受講生の多くは、絵を描くことが好きであり、一生懸命自分の好きな猫を描いていた。大よその受講生は時間内に終了できたが、中にはうまくいなくて何度も描き直す者もあり、時間がない場合は、昼休みの食事を早めに済ませて作業する受講生もいた。

食事は60分程度の時間を取り、担当教員や学生スタッフと一緒に食事を取るようにして和やかに会話をすることを心がけた(Photo4)。

午後からは午前中に制作した静止画をもとに、高田がFlashによるアニメーションの制作に取り組んだ(Photo5)。昨年度と同様にMac上での操作であり、Windows上の操作とは勝手が異なるため、戸惑う受講生もいたが、学生スタッフを配備(2~3名の受講生に対して1名のスタッフ)したため、支障なくスムーズに操作できた。動画作成ツールであるFlashに関しては、初心者の受講生が多く、こちらの提示と連動させ、受講生の進捗状況を常に確認し、付いて行けない受講生が出ないように配慮した。Flashは、操作手順を間違えるとやり直す場所が分かりづらいので、その場合は学生スタッフが積極的に支援した。

完成の後、全員の作品をディスプレイに表示し、相互に鑑賞し合い、講評などを述べた。他の受講生の作品を鑑賞することは、非常に盛り上がり、受講生を楽しませる大きな要因となった。

その後、アンケート記入と修了式を実施し、受講生ひとり一人に未来博士号の証書を授与した(Photo6)。

プログラム終了後は受講生をバスで金沢駅まで送った。

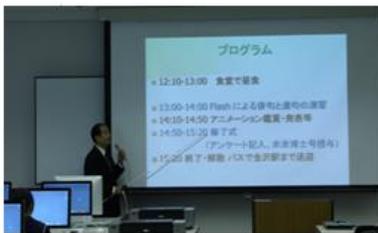


Photo1



Photo2



Photo3



Photo4

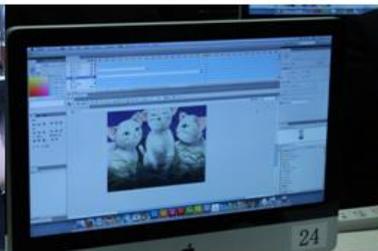


Photo5



Photo6

<協力体制>

事務局との協力体制は、綿密な連携が取れたと言える。プログラムの実施面では、特に、教員が見落としがちな面を中心に的確に補完してもらった。受講生募集ならびに、当日の実施準備も、プログラムを円滑に実施できるよう相互に協力した成果は大きいといえる。教員は、教材作成や教育内容に気を取られ、事務的な面では疎かになりがちになり、作業項目漏れやスケジュール遅延も予想された。しかし、事務局のスケジュール管理ならびにきめ細かい支援のおかげで、遅滞なく実施できた。また、予算管理なども十分対応してもらった。

<広報体制>

広報に関しては、特に地方の場合、人間的な接触が大切であり、本学の入試広報部の支援も受け、高校訪問、ならびに、本プログラムの資料を関係生徒に送付した。今まで培った高校との繋がりを活かし、ポスターに関しては、主として各高校へ送付し、掲示を依頼した。また、身近なところでは、本学の学生スタッフの出身校を中心に資料を配布してもらった。また、昨年度お願いした高校にも積極的に働きかけ定員の確保に努めた。さらに、新規開拓のためあらゆる接触点を有効に活かすよう心がけた。

<安全体制>

安全体制に関しては万全を図り、今年度は、気分の悪くなった受講生もなく支障なく実施できた。実施者・実施分担者・学生スタッフが連携を図って安全面に配慮した。芸術系の受講生は作品制作にのめり込むと、時間を忘れ作業するので、目の疲れを初めとして肉体的に疲労が蓄積しないように休憩時間

は、必ず席を離れ深呼吸などしてリフレッシュさせることに気を配った。

<今後の発展性・課題>

今回は、21名が参加した。今回で6回目の実施となり、知名度もあるのである程度安定した募集ができたが、いつも参加してもらっている高校が終業式を1日遅れで実施したことにより、日程が重なったためその高校生を確保できなかったのが残念であった。また、補習等でイベントに参加するのが難しい高校もあり、受講生の確保は年々シビアになって来ているのも事実である。しかし、このプログラムは、高校生に好評であり、地域振興にはかなり貢献できていると思われ、また、本学学生のコミュニケーション能力や社会性向上にも繋がり、非常に有益なものとなっているためできる限り継続して実施して行きたいと考えている。

【実施分担者】

柳澤 良一	文学部・教授
吉田 一誠	美術文化学部・講師
桑野 裕昭	経営情報学部 教授

【実施協力者】 11名

【事務担当者】

村上 昌也	経理部経理課・副主任
清水 里美	教務部教務課